

第1号様式

(第1面)

事業活動地球温暖化対策計画書

(あて先) 川崎市長

郵便番号 105-7123
 住 所 東京都港区東新橋1-5-2 汐留シティセンター
 氏 名 富士通株式会社 印
 代表取締役社長 山本 正巳
 (法人にあつては、名称及び代表者の氏名)

川崎市地球温暖化対策の推進に関する条例第9条第1項(同条第4項において読み替えて準用する場合を含む。)の規定により、次のとおり提出します。

事業者の氏名 又は名称	富士通株式会社		
主たる事務所又は 事業所の所在地	川崎市中原区上小田中4-1-1		
該当する事業者 の要件	<input checked="" type="checkbox"/> 規則第4条第1号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第2号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第3号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第4号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 上記以外の事業者(任意提出事業者)		
主たる事業 の業種	大分類	E	製造業
	中分類	30	情報通信機械器具製造業
主たる事業 の内容	ITを活用したビジネスソリューション		
事業者の規模	<input checked="" type="checkbox"/> 原油換算エネルギー使用量	25,838	k l
	<input type="checkbox"/> 自動車の台数		台
	<input type="checkbox"/> エネルギー起源の二酸化炭素 以外の温室効果ガスの排出の量		t -CO ₂
連絡先	担当部署	担当部署名	川崎工場環境管理部
		所在地	川崎市中原区上小田中4-1-1
		電話番号	044-754-8976
		FAX番号	044-754-2524
		メールアドレス	

※受付欄	※特記事項	※事業者番号	

(第2面)

計 画 期 間	平成22年度 ~ 平成24年度
温室効果ガスの排出の量の削減を図るための基本方針	別添 指針様式第1号及び第3号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減に向けた組織体制	別添 指針様式第1号及び第3号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減目標及び温室効果ガスの排出の量	別添 指針様式第1号及び第3号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の内容に係る事項	エネルギー消費CO ₂ の排出量を抑制するため、省エネ型設備の導入、社員一人ひとりができるオフィス空調温度の適正化及び照明・OA機器の節電を図る。 ・省エネ高効率型機器の導入 ・グリーン電力の使用 詳細は、指針様式第1号（第4、5面）のとおり
他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置に係る事項	低CO ₂ 川崎パイロットブランド09認定 製品名：PRIMERGY BX900シリーズ 詳細は、指針様式第1号（第6面）のとおり
その他地球温暖化対策の推進への貢献に係る事項	廃棄物対策 ・生ごみ肥料化による食品リサイクルループの構築 ・紙の資源循環リサイクル 屋上、壁面緑化の推進 川崎温暖化対策推進会議（CC川崎エコ会議）への参加 詳細は、指針様式第1号（第6面）のとおり
備 考	当社の地球温暖化対策の取組については、ホームページにて公表しています。 http://jp.fujitsu.com/about/csr/eco/

備考 1 欄内にすべてを記載できない場合は、別紙により提出してください。

2 □のある欄は、該当する□内にレ印を記載してください。

3 計画書には、事業活動地球温暖化対策指針に定める資料を添付してください。

4 ※印の欄は記入しないでください。

5 氏名（法人にあっては、その代表者）を記載し、押印することに代えて、本人（法人にあっては、その代表者）が署名することができます。

事業活動地球温暖化対策計画

1 温室効果ガスの排出の量の削減を図るための基本方針

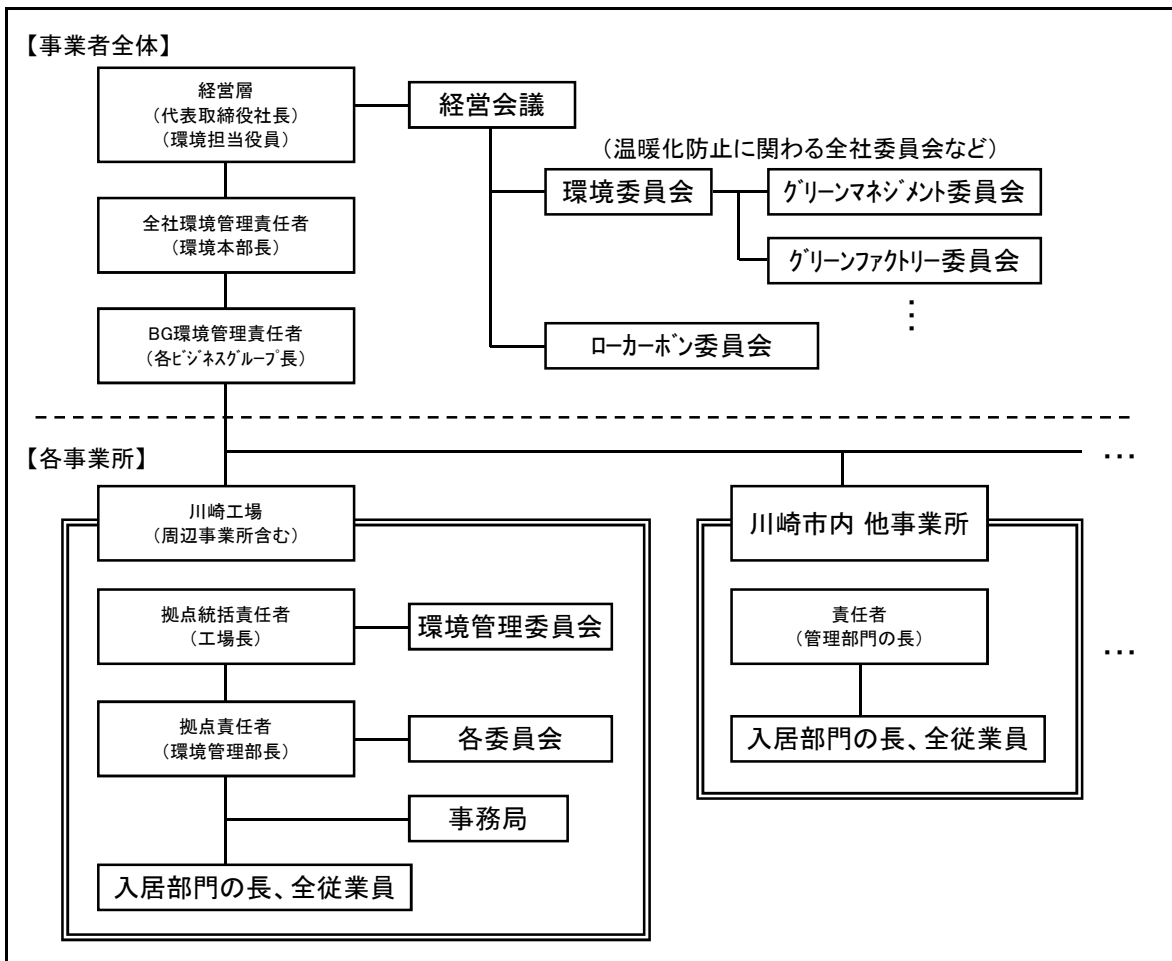
1. 事業者全体基本方針

- 富士通グループ環境方針に規定し、積極的な地球温暖化対策を進めている。
- ・製品のライフサイクルを通じ、すべての段階において環境負荷を低減する。
 - ・省エネルギー、省資源および3R（リデュース、リユース、リサイクル）を強化したトップランナー製品を創出する。
 - ・IT製品とソリューションを通じ、お客さまや社会の環境負荷低減と環境効率の向上に貢献する。
 - ・社員一人ひとりは、それぞれの業務と市民としての立場を通じて環境の改善に努める。また、川崎市内の事業所については、その事業内容及び地域社会などの環境を考慮し、それぞれ方針及び目標を定めて活動を実施している。

2. 市内事業所の重点テーマ

- ・環境負荷低減の強化
- ・環境経営基盤の強化
- ・社員の環境マインドの更なる向上
- ・生物多様性保全活動の推進など

2 温室効果ガスの排出の量の削減に向けた組織体制



3 温室効果ガスの排出の量の削減目標等 (第1号、第2号、第4号該当者等)

(1) 温室効果ガスの排出の量の削減目標及び温室効果ガスの排出の量

ア 基準排出量と目標排出量

基準年度	平成22年度	目標年度	平成24年度
基準排出量	(実) 43,547 (調) 35,805	t-CO ₂	(実) 42,948 t-CO ₂
削減率	(実) 1.4	%	(実) 599 t-CO ₂

イ 基準排出量原単位等と目標排出量原単位等

原単位の活動量	単 位
基準年度の値	目標年度の値
削減率	%
延床面積、生産数量以外の原単位を使用した場合の理由	

ウ 目標設定に関する考え方

富士通グループは、環境方針を実践していくための具体的目標として、環境行動計画を策定し、計画的・継続的に環境活動に取り組んでいます。第6期環境行動計画（2010年度～2012年度）に基づき、市内事業所としてエネルギーCO₂消費の削減を図るため、年間の原油換算エネルギー使用量が原油換算で500kℓ以上の事業所を対象にCO₂排出量を年1%削減することを前提に目標を設定した。但し、2010年度新規ビルの開設に伴い、増加要因として600 t-CO₂/年の増加見込みにより、全社（川崎市内に設置しているすべての事業所）として3年間で1.4%削減することを目標に設定した。

(2) 温室効果ガスの排出の量の削減目標（全社目標）

自らの環境負荷低減の強化
【温室効果ガス（GHG）の排出量の削減】
 温室効果ガスの総排出量を2012年度末までにグローバルで1990年度比6%削減する。
 （CO₂：5%削減、CO₂以外の温室効果ガス：20%削減）
【温室効果ガス（GHG）の排出量の削減（再生可能エネルギー）】
 再生可能エネルギーの利用率を2012年度末までに2007年度比3倍にする。
【物流・輸送時のCO₂削減】
 国内輸送CO₂排出量を2012年度末までに2008年度比11%削減する。
【お取引先のCO₂削減の推進】
 CO₂排出抑制/削減の取り組みを実施するお取引先からの調達を推進する。

5 温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の内容に係る事項

(1) 温室効果ガスの排出の量の削減のための措置の内容

<p>事業所等に係る温室効果ガスの排出の量の削減を達成するための具体的措置</p> <p>(第 1 号、第 2 号、第 4 号該当者等)</p>	<p>【社員一人ひとりの活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ チャレンジ25キャンペーン (オフィス空調温度の適正化及び照明・OA機器の節電) ・ 照明消灯 (昼休み、就業後) <p>【省エネ高効率型機器の導入によるCO2排出量削減】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 用水ポンプを高効率モータに更新 ・ 蛍光灯を高周波点灯型省エネ器具に更新 ・ 冷凍機を高効率化に更新 ・ 変電所の変圧器を省エネ型トッランナー変圧器に更新 ・ 変電所統合による省エネ ・ サーバ統合/終夜電灯の削減
<p>自動車に係る温室効果ガスの排出の量の削減を達成するための具体的措置</p> <p>(第 3 号該当者等)</p>	

(2) 再生可能エネルギー源等の利用計画及び前年度末における利用実績

ア 再生可能エネルギー源等の利用に係る考え方

・川崎工場の再開発事業に沿って、再生可能エネルギーの事業所への導入を推進する。
 ・春祭り、クリスマスイベントなどにおいて使用する電力のすべてに風力発電によるグリーン電力を使用し、グリーン電力証書の購入によるカーボンオフセットを行うことで、再生可能エネルギーを使用したこととみなす。

イ 再生可能エネルギー源等の利用計画及び利用実績

設備等の種類	概要(規模、導入場所、性能等)	導入年度	備考
太陽光発電	規模：50kw 導入場所：川崎工場 発電量：30,000kwh	平成22年度	

ウ 再生可能エネルギー源等の価値の保有計画及び保有実績

種類	概要(規模、場所等)	保有年度	備考
風力発電	グリーン電力証書の購入 規模：1,000kwh 場所：川崎工場	平成22年度	購入済
風力発電	グリーン電力証書の購入 規模：3,000kwh 場所：川崎工場	平成22年度	予定
風力発電	グリーン電力証書の購入 規模：4,000kwh 場所：川崎工場	平成23年度	予定
風力発電	グリーン電力証書の購入 規模：4,000kwh 場所：川崎工場	平成24年度	予定

(3) 基準年度の末日までに完了した主な対策内容

省エネルギー設備の導入については、基準年度以前から積極的な取り組みを行っている。

- ・ボイラーの燃料を灯油から都市ガスに変更(平成18年度)
- ・空調機電動機の更新(平成19年度)
- ・エレベータ省エネ型に更新(平成19年度)
- ・変圧器の更新及び統合4台(平成20年度)
- ・変圧器の更新及び統合6台(平成21年度)
- ・吸収式冷凍機をターボ冷凍機に変更(平成21年度)
- ・グリーン電力証書の購入、規模：4,000kwh 場所：川崎工場(平成20年度)

6 他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置に係る事項

低CO₂川崎パイロットブランド09選定
製品名：PRIMERGY BX900シリーズ
CO₂削減量：ライフサイクル全体で約55%/1機能削減

7 その他地球温暖化対策の推進への貢献に係る事項

1. グリーン購入の推進を行う。
2. 廃棄物の減量化、分別化の推進を図る。
3. 川崎温暖化対策推進会議（CCエコ会議）への参加を行う。
4. 川崎工場の建屋に屋上緑化・壁面緑化を行う。
 - ・ 建屋屋上にサツマイモ、建屋壁面にゴーヤやアサガオなどを植栽して、緑のカーテンを設置することで直射日光をさえぎり、空調負荷を低減する。

様式第 1 号

(第 7 面)

8 前年度の温室効果ガスの排出の量等の実績

(1) 事業者単位

ア 第 1 号、第 2 号、第 4 号該当者等

(実)	43,547	t-CO ₂
(調)	35,805	

イ 第 3 号該当者等

(実)		t-CO ₂
(調)		

(2) 事業所等単位 (第 1 号、第 2 号該当者等)

ア 年間の原油換算エネルギー使用量が 1,500k_l 以上の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類 細分類番号	事業所に係る 事業の名称	温室効果ガス の排出の量
川崎工場	川崎市中原区上小田中4-1-1	3000	主として管理事務を行う本社等	37,949 t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂

イ 年間の原油換算エネルギー使用量が原油換算で 500k_l 以上 1,500k_l 未満の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類 細分類番号	事業所に係る 事業の名称	温室効果ガス の排出の量
中原ビル	川崎市中原区上小田中2-12-5	3000	主として管理事務を行う本社等	2,034 t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂

ウ 年間の原油換算エネルギー使用量が原油換算で 500k_l 未満の事業所の一覧

エネルギー使用量の規模	事業所数
400~500k _l 未満	
300~400k _l 未満	4
200~300k _l 未満	
100~200k _l 未満	4
100k _l 未満	5

(3) 事業所等単位 (第 4 号該当者等)

ア 物質ごとの年間の温室効果ガスの排出の量 (二酸化炭素換算) が 3,000 t 以上 (二酸化炭素の場合はエネルギー使用に伴い排出したものを除く。) の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類 細分類番号	事業所に係る 事業の名称	温室効果ガス の排出の量
				t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂

イ 物質ごとの年間の温室効果ガスの排出の量 (二酸化炭素換算) が 3,000 t 未満 (二酸化炭素の場合はエネルギー使用に伴い排出したものを除く。) の事業所の数

事業所数	
------	--